

2012年9月25日

御殿場市長
若林 洋平 様

社会民主党静岡県連合
代 表 橋本 勝六

MV22 オスプレイ配備と飛行訓練の中止を求める要請書

市民生活の向上に向け、ご尽力されていることに心から敬意を表します。

さて、6月13日防衛省は、沖縄県に米軍普天間飛行場への垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイ配備に向けた米軍作成の環境審査報告書を提出しました。報告書は、オスプレイ運用開始後、米海兵隊キャンプ富士と岩国基地にも派遣され、低空飛行訓練を国内6ルートの「航法経路」で行うことが明記されています。

キャンプ富士に派遣されれば、夕刻（午後7時～10時）28%、夜間（午後10時～午前7時）4%を含む、平均高度150Mの低空飛行訓練が行われ、住民は騒音並びに恐怖と不安にさらされることになります。ましてや、世界文化遺産登録を目指す富士山と軍事基地は共存できるものでなく、到底認められるものではありません。

米軍の飛行訓練は、ルート下にある学校や病院、発電所やダムなどを仮想の攻撃目標として、レーダーに捕捉されないよう高度150メートルで進入してきます。国内法の航空法施行規則では、航空機の最低安全高度を「人または人家が密集している地域の上空にあっては、当該航空機を中心として水平距離600メートルの範囲内の最も高い障害物の上端から300メートルの高度」と定めており、公共施設を目標に150メートルで進入する訓練は、明らかに国内法に違反します。

配備しようとしている同機は、開発段階で4回、部隊配備後も3回の墜落事故を起こし36人が死亡しています。今年4月発生のもロッコの事故、報告書が提出された13日のフロリダ州ナバラ北部の演習場での事故は記憶に新しいところです。

これまで幾度となく墜落事故を起こしている危険極まりない同機の配備や飛行訓練に対し、住民は大きな懸念を抱いています。

つきましては、住民の安全を最優先に考え、住民に恐怖と不安を与えぬよう下記の事項について、対応いただきますよう要請します。

記

1. 住民の安全を守る立場から、オスプレイの国内への配備と、全国6ルートでの低空飛行訓練に反対してください。
2. 世界文化遺産登録を目指す富士山と軍事基地は共存できるものでなく、海兵隊キャンプ富士をオスプレイの訓練基地にすることに反対してください。
3. オスプレイの普天間基地配備と訓練の撤回を、日本政府に強く申し入れてください。

以 上